

# ゼロカーボンビレッジいいたて実行計画（事務事業編）概要版

## 第1章 計画策定の背景と基本的事項

### 1. 計画策定の背景

地球温暖化は温室効果ガスの増加で気温が上昇し、異常気象や生態系に影響を及ぼしています。2015年のパリ協定では、気温上昇を2℃以下に抑える目標が定められ、日本でも地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき2030年46%削減、2050年カーボンニュートラルを目指しています。また、SDGsでは「誰一人取り残さない」持続可能な社会実現を掲げ、2030年までの国際目標として脱炭素や産業基盤の整備を含む17の目標が設定されています。



図1 SDGsにおける17の目標

### 2. 計画の基本的事項

計画対象は、村の全事務及び事業で、温室効果ガスは主に二酸化炭素（CO2）を取り上げます。計画期間は2025年度から2030年度の5年間で、進捗に応じて見直しを行います。基準年度は2023年度とし、計画は「第6次総合振興計画」に基づいて策定されます。

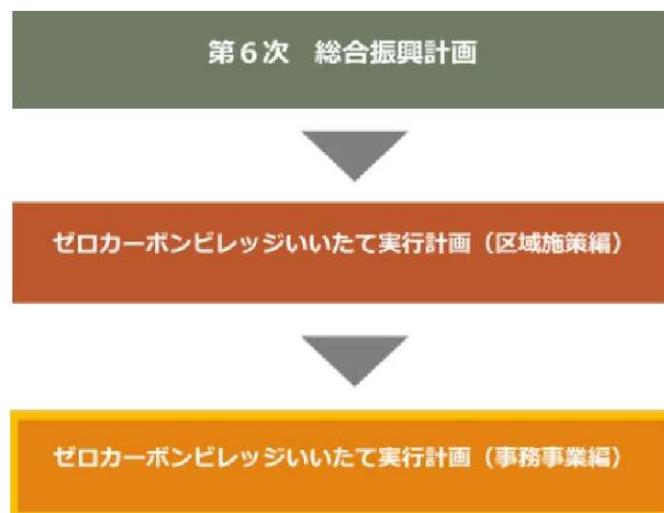


図2 計画の位置づけ

## 第2章 エネルギー使用量及びCO<sub>2</sub>の排出量と削減目標

### 1. 飯舘村におけるエネルギー使用及びCO<sub>2</sub>排出状況

#### (1) エネルギー使用量

2023年度の飯舘村においては、電気使用が主なエネルギーですが、軽油、灯油、重油A、ガソリン等の燃料使用も少なくありません。

| エネルギー<br>使用集計期間             | 項目   | 使用量       | 単位             |
|-----------------------------|------|-----------|----------------|
| 令和5年4月から<br>令和6年3月請求<br>分まで | 電気   | 2,229,476 | kWh            |
|                             | 灯油   | 62,757    | L              |
|                             | 軽油   | 62,723    | L              |
|                             | ガソリン | 43,829    | L              |
|                             | 重油A  | 13,663    | L              |
|                             | ガス   | 6,887     | m <sup>3</sup> |

#### (2) CO<sub>2</sub> 排出量

CO<sub>2</sub> 排出量で見ると、電気使用量によるものが67.8%と半数以上を占めていますが、燃料使用による排出量も30%程度あることが分かります。

このことから電気だけでなく、燃料使用に関する省エネルギーに取り組むことが有効と言えます。

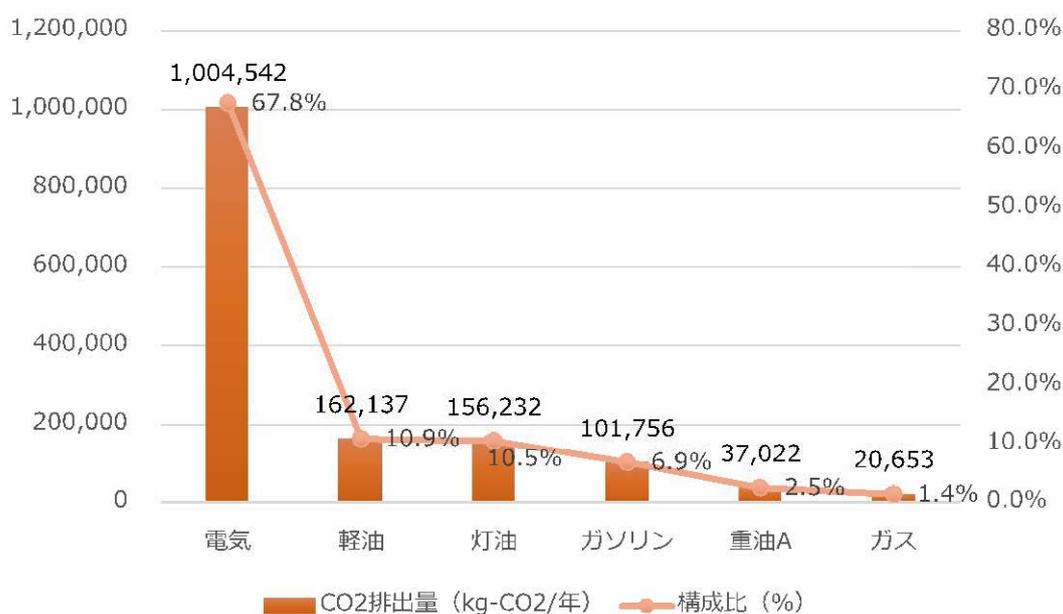


図4 CO<sub>2</sub> 排出量の内訳

※使用実績・データの無い課については、集計から除いています。

### 2. CO<sub>2</sub> 排出削減目標

2030年度までに2023年度比でCO<sub>2</sub> 排出量を**50%削減**します。

### 第3章 CO<sub>2</sub> 排出削減目標達成に向けた具体的な取組み

CO<sub>2</sub> 排出削減目標に向け、下記の3テーマを設定し、取り組んでいきます。

|      |                    |
|------|--------------------|
| テーマ1 | 省エネルギー対策・用紙削減・ごみ減量 |
| テーマ2 | 環境配慮型製品の購入推進       |
| テーマ3 | 公共工事による環境負荷低減      |

図5 CO<sub>2</sub> 排出削減3つのテーマ

| 区分 | 取組種別                    | 具体的な取組み   |
|----|-------------------------|---|
| 共通 | 使用量の把握・管理               | 定期的に使用量を把握・記録し、見える化する。                            |
| 電気 | 電気機器の設定・管理              | 原則として各電気機器は、搭載されている省エネルギーモードに設定する。                |
|    | 空調機器                    | 夏季の軽装や冬季の重ね着等を行い、空調機器の使用を抑制する。                    |
| 燃料 | エコドライブの推進               | 全職員へエコドライブ10のすすめ（平成24年10月、エコドライブ普及連絡会）を周知し、励行を促す。 |
|    | ガス機器等の効率的な使用            | 稼働時間を短縮する等効率的な使用を心がける。                            |
| 水  | 節水の励行                   | 掲示物等で節水の啓発・励行を促す。                                 |
| 用紙 | DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進 | 電子決裁を導入し、文書を電子化することで紙使用量を削減する。                    |
| ごみ | 外部からの持ち込み量の抑制           | 業者からの営業資料等について、電子データでの提供を依頼し、紙媒体での持ち込みを極力無くす。     |

図6 CO<sub>2</sub> 排出削減の具体的な取組み（計画本編より抜粋）

## 第4章 計画の推進体制と評価・公表

### 1. 推進体制

#### (1) 計画の評価・見直し体制及び方法

地球温暖化対策推進委員会及びゼロカーボンビレッジいいたて実行計画協議会において、計画の進捗管理や評価・見直しを行い、本計画の推進及び改善のための検討を行います。



図7 計画の評価・見直し体制

本計画は、PDCA サイクルによる評価・見直しを行います。また、協議会は毎年1回以上、進捗状況を確認・評価し、必要に応じて事務事業編の改定を行います。



図8 計画の評価・見直し方法

### 2. エネルギー使用量報告及び使用状況の公表

毎年使用量の集計を行い、定期的に各所属における取組の実施状況及び計画目標の達成状況などを点検し、毎年9月末までに報告書を推進委員会へ提出するものとします。

また、前年度の年間エネルギー使用量等を集計して、計画の実施状況と照らして確認を行い、毎年10月末までに広報、ホームページ等で公表します。